

# 筆山

第65号 / 2018年12月

土佐中・高等学校同窓会

関東支部会報

編集人 / 中平 公美子 (59回)

発行人 / 関東支部幹事長 市川 直介 (53回)

関東支部ホームページ :

<http://www.tosako-kanto.org/>



## 「ことば」とともに

辞書の仕事に携わるようになって四半世紀、主に『大辞林』などの国語辞書の編集に取り組んできましたが、辞書の編集部など、ほとんどの人にとっては存在も覚えないもののように、「辞書って、いまだに作っている人がいるんですか」などと、実際に聞かれることもあります。二〇一二年に小説『舟を編む』と、続く映画のヒットもあり、私の編集部もNHKのE-TV特集に取り上げられるなど、多少辞書編集という仕事の存在も知られるようになってきたかと思われます。とは言え、一八世紀に『英語辞典』を編んだイギリスのサミュエル・ジョンソンいわく、辞書の作業とは、明けても暮れてもことばの使用例を追っかけ回し、意味の枝葉末節を数え上げる「harmless drudge」（人畜無害のくたびれ仕事）という面があります。

ただ、国語辞典が扱う「ことば」は、水や空気、電気や通信等と同じく、社会生活のためのインフラでありライフラインの一つであると思っています。ことばなくしては、私たちの生活は一日たりとも成り立ちません。人として生まれてくるということは、ことばの恩恵にあずかることであり、人としての最初の大きな仕事はことばを習得することではないでしょうか。まさに、知識・知恵を身につけるとは、ことばを身につけることから始まるわけです。室町時代に成立した『下学集』という古辞書の序文にはこうあります。「無知蒙昧を嘆くことはいない。毎朝一画を学び、毎夕一字を習って行けば、たとえ膨大な巻数の書物であろうともいずれ読破できよう」と。小さな知識を積み上げて、やがて大きな知識に至るといのが、『論語』でいう「下学上達」です。そのため最初の一步がことばの習得です。

ことばも、よく観察すると常に揺らぎ、変化を繰り返していることが分かります。それらの変化も含め、ことばの実相をお届けできるように努める日々は、「くたびれ仕事」とは言え、またささやかな喜びでもあります。

次号にて訪問させていただける社長様に訪問インタビューをしてみたいという大学生または若手社会人の方を募集しています。企画へのご協力よろしくお願いたします。

「Bigbeat」という社名は、ロックノールの意味が由来だそうですね。濱口さんの考えるロックな生き方とはどんな生き方ですか。

私なりの定義ではありませんが、端的に言えば「私は、「という主語で物事を発するということ、またその発言と行動がぶれていないこと、さらには「心と口」のことをやり通す」ということです。当社は、主語を「私は」で語る集団でありたいと考えています。思い返せば、そのスピリットは、「冠する土佐の名に叶え」の土佐高校歌にも現れている（と私は考えています）ように、土佐校時代に培われたものかもしれない。今でも違和感をもつのですが、ビジネスマンが何気なく使う「うちの会社はさ、「というフレーズはロックではないと感じております。おまえ自身はどう思うんだ、と言いたくなります。そのような人々は概して、不平不満こそ大口をたたきますが、自ら行動を起ささないからです。

どのようにして社長になられたのでしょうか。

私は室戸の出身です。実家は祖父と父が工場を営んでいたし、電気屋さんを営む親戚もいました。会社などで働く、いわゆる勤め人というスタイルが働き方の中心ではなかったわけですね。魚釣って生きている人も多い街ですからね。（笑）ですので自分の手で何かをやって生きていくという、さほどハードルを感じなかったのかもしれない。社長になるのは簡単です。しかしそれをやり続けることは難しい。いつ引退するかというのはさらに難しいのです。（笑）

なぜ広告業界を選ばれたのですか。

就職活動をはじめたのは、バックパックスの旅から帰国した後、大学5年生の夏でした。大学の就職課に駆け込み、紹介してもらったのは商社、保険会社、電子機器販売会社、広告代理店の4つ。その中で唯一「広告業界が肌に合いそうだと感じました。フィリングで決めた業界ですが、生まれ変わってもまた広告の仕事がしたいと思っています。大好きな仕事です。

サラリーマンから社長へのキャリアチェンジのきっかけを教えてください。

営業マンとして色々な社長と話をさせていただきました。色々な社長と接する中で、自由に、しかし自分の会社のために一生懸命に働く社長の働き方が、端的に「格好いい」と感じました。そこから社長として仕事をしていきたいと興味を持つようになりました。

創業時のエピソードを教えてください。

創業は、妻も含め3人でスタートしました。オフィスの場所は西葛西です。朝の通勤電車から解放されるため、自宅のあった西葛西で創業したのです。その後、西葛西から麴町にうつり、現在は紀尾井町のニューオータニに越して4年が経ちました。西葛西から麴町に移したら急に採用が楽になり驚いたものです。当初は前職で縁のあった旅行代理業から始めました。その後、クライアントのご要望に応じていくうちに広告業も手がけるようになり、今は広告会社としてProB企業のマーケティングを支援しています。（次頁へ）

## マーケティングで未来を変える

### 感動を生むコミュニケーションを創造する

#### 就職活動生へメッセージ

仕事をするうえで、その企業の文化に共感するかどうか、自分の肌に合うのかは重要です。とどのつまり、自分自身は何を冠していきたいのかということです。就職活動において、会社の理念を自分が行動で示せるかどうか、というのは判断基準のひとつになるかと思います。未来や仲間や自由を大切に、自分を主語にして語れる、そんなビジネスパーソンを目指してほしいですね。

## インタビューを終えて

社長業で大変お忙しい中、たっぷり2時間のインタビュー時間を設けていただきましたが、本当にあっという間の時間でした。具体的なエピソードや例え話が豊富で、インタビューアは濱口さんの世界にどんどん引き込まれていきました。とても気さくで穏やかな濱口さんですが、マーケティングについて語るときの真剣かつ情熱的な口調から、これからは企業がマーケティングを本気で考えなければ生き抜けない時代であることが伝わってきます。私自身、来年から法律事務所を経営するということもあり、インタビュー中、自分はこのようなマーケティングを行っていくべきか考えさせられるとともに、身が引き締まる思いでした。

結城 優（八三回）

濱口さんの経営信念は、とても明確でした。仲間と共に愛する広告業でいい仕事をする。そのために自分は何を考え、行動しているのかを情熱的に教示くださいました。

僭越ながらも「自分の学年にもこういう人がおった気がする…」と親近感を感じ、体育祭で樽の上で活躍される学ラン姿を想像していました。

濱口さんの「マーケティングとは一番伝えたい人に思いを届ける方法であり、気持ちの人が感動させる」というお言葉に、まるで大人の恋愛術を教わったような気持ちになりました。

佐藤 彩記子（八一回）



どのようにして事業の拡大に成功されたのでしょうか。

月並みですけど小さな約束を守って、いい仕事をして、信頼を少しずつ積み重ねていくことでしょうか。前職のアドマン時代の面白いエピソードがあります。いまでも大企業の第一線で活躍される、ある社長とお仕事をさせていただいていたときの話しです。当時から忙しい方ではなかなかにアポイントがとれず、秘書の方に聞いて、なじみの喫茶店を覚えてもらいました。そこで偶然をよそおって待ち伏せをしたんです。すると、その社長が、「ここは喫茶店だけどカラーが美味しいんだよ」と教えてくれました。その後すぐに食べてみて、「確かにあそここのカラーは美味しいですね。」とお伝えしたところ、南新宿にもいい店があるよ、と連れて行っていただくこととなり、一気に距離が縮まりました。

会社を経営される上で重要視されていることを教えてください。

私が会社をする上で大切にしているのは、「関わった人すべてがハッピーを感じる」ということです。だから社員にはその理念の基で行動してほしい。私自身は、単にお金を儲けることや事業規模を拡大することよりも、好きな仕事を好きな人たちとすることに情熱を注いでいます。具体的には、クライアントの経営を理解し、その商品やサービスを好きになれるように心がけています。

広告業界とはどのような業界ですか。広告業界は変化があるところにビジ

ネスチャンスがあります。今日でいうAIやIoTですね。広告会社、マーケティングの役割は、新しいテクノロジーとそれを欲する人とを結ぶことです。日本には「良い製品をつくりさえすれば、自然と売れるはずだ」という考えが根深く残っているように感じます。厳しい現実ですが、広告を打ちさえすれば、物が売れるという時代は終わりました。

御社のビジネスとはどのようなものか教えてください。

私たちは広告会社として企業のマーケティング活動を支援しています。マーケティングの定義は非常に難しいですが、私なりの定義でいえば、「自社の最たる顧客は誰かを想定し、その顧客が自社のサービス、製品に触れた際に発する感動の言葉や、そのシーンを戦略的に創る」と（一枚の絵（すま））だと考えています。重要なのは一番のお客様にその商品がどのような物なのか、そのストーリーを伝えることです。一番伝えたい人に届かないような想いは、一番、三番の人も振り向かないからです。一番のお客様がそのサービスや製品に触れた際に、どのような感動を発するのか。そのシーンを戦略的に創ることが我々の仕事です。

企業イメージへの共感、ブランド力の強さに言い換えられます。ブランドとは「選ばれた理由」であり、もっと商売的な言い方をすれば、商品の原価に上乗せされている付加価値です。マーケティングは、そのブランド力を支えているのです。

## 第3回 濱口 豊 はまぐちゆたか 56回生

### PROFILE

- 1981年 土佐高校卒業
- 1986年 法政大学経営学部経営学科卒業
- (株)日本経済広告社入社
- 1995年 同社退社
- (株)ビッグビート設立



顧客のイベントを企画運営する傍ら  
昨年より自社イベントを主催。  
2019年も開催予定。

## 株式会社 ビッグビート

### 会社情報

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 4-1  
ニューオータニガーデンコート 22F  
<https://www.bigbeat.co.jp/>

### 主な業務は

BtoB企業のマーケティングコミュニケーション活動の支援。  
2018年1月タイ バンコクに現地法人を設立、ASEANでのビジネス支援も開始。

# 木曾駒ヶ岳と千畳敷カール



今年の土佐ハイキングの会は、4歳から75歳までの37名で木曾駒ヶ岳を目指しました。朝7時15分に新宿に集合、サロン席付きの大型バスで出発。車内では、土佐弁が行き交い非常に賑やかで、相も変わらず朝からビールが消費されていきました。



木曾駒ヶ岳は、標高二九五六メートルで、百名山の一つ。中央アルプス最高峰の山ではあるが、ロープウェイ利用で二六〇〇メートルまで登ることが出来ます。登山組は、初登山の方も、それぞれに目標を持ち、自分の脚力に合わせて楽しみました。千畳敷カールは本当に見事でした。散策組も小雨の中でしたが、千畳敷カールはまだまだウメバチソウが盛りで十分に楽しめました。季節は秋へと変わり、ナナカマドの赤い実が目につきましました。標高二六一二メートルで飲む雪解け水のコーヒーマーは、雨で冷えた身体を温めてくれました。



## 感想文その1 登山初挑戦にして余裕の登頂 松平恵美さん(四八回)

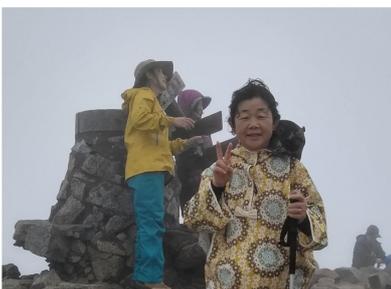
五九回中平さんに誘っていただき初参加。本格的登山も初挑戦。登山靴とストックを購入し、同級の経験者平石さんを誘っていざ木曾駒ヶ岳へ。一日目

八時頃貸切バスで新宿を出発。昼頃武田信玄の命により山本勘助が縄張(設計等)をしたと伝えられている高遠城跡に到着。紅葉にはまだ早くひっそりと静か。春はコヒガンサクラが見事だそう。太鼓櫓のそばのベンチで昼食。山犬の早太郎伝説や光苔で有名な光前寺へ移動。石垣の間隙を何度も覗き込み光苔の撮影に成功。こまくさの湯で一風呂浴びて、駒ヶ根ユースホステルへ到着。

二日目  
夜半過ぎからあいにくの雨。六時朝食。上級者の宝剣岳挑戦は断念することに。7時頃出発バスでロープウェイの乗り口しらび平駅へ。日本一の高差九五〇mを七分三〇秒で一気に登る。二六一二mの千畳敷駅はさすがに寒い。散策組と登山組に分かれ、さらに登山組が普通組とスロークリムに分かれる。私と平石さんは十数人の普通組に入ってしまった。レインコートを着て小雨の中出発。途中隊列が乱

れ、普通組がさらに二つに分かれる。速組は八人。先導の西本さん、小学生の岡野兄弟、女子大生角田さん、私、平石さん、濱田さん、久万さんで山頂を目指す。二八五〇m乗越浄土で休憩。二九二五m中岳へ。ここから二九五六mの頂上まで高低差三一mというのに一度下りに入る。初心者向けとはいえ最後の登りは結構きつい。やっと山頂へ。天気が良ければ富士山や南アルプス、北アルプスが一望出来るそうだが何も見えず残念。雨で体が冷えるので記念撮影後早々に下山。昼前には千畳敷カールに到着。カフェでコーアを飲みながら他の組の到着を待つ。全員無事揃ったところで記念撮影。

充実した一泊二日の登山旅でした。幹事の皆様、参加者の皆様、お世話になり有難うございました。来年は天気に恵まれますように…。楽しみにしています。



駒ヶ岳山頂記念

感想文その2 初参加にして  
俳句で天に輝いた  
中山聖仁さん (五九回)

一〇〇回

最初に到着したのは、高遠城である。桜の名所であるが、今季は夏。武田氏が滅んだきっかけとなった攻城戦のあった場所、城好きの自分には興味深々である。その後、光前寺に行く。この古寺は由緒が古く、また「早太郎」伝説のあるパワースポットである。(写真)



二〇〇回  
自分は、中島隊長の率いるゆくり登山組。ちよっとメタボなので、健脚組には入れない。登り始めたが、霧が多く宝剣岳の頂上が臨めない。ここで、中島隊長から「土佐弁しゃべりよったら、どこかの集団と間違われるき、標準語にするように」と指示が出た。約一時間程度で、宝剣山荘に到着。途中、中岳で方向を見失ったが、駒ヶ岳登頂アタックに向かう。少し岩場が

続くが危険な箇所はない。霧が出ていて視界が悪く、すぐ傍にある駒ヶ岳が見えない。何とか駒ヶ岳頂上に到着し記念に



作が発表され始めた。第十位から順番に発表される。内心「こいこい、トンボきり」と念ずる

写真撮影。一休憩した頃、後続の人も山頂に到着。持ってきた梅干しを中島さんにお渡しすると、「うめー」と言ったのが、面白く、しばらく皆が笑っていた。下山は、あつという間であるが、ここで奇跡的に雨が止んで、霧が晴れた。眼前に宝剣岳が、雄々しい姿を現した。慌ててカメラで撮影。千豊敷カールに降りるとすっかり爽やかなお天気になった。麓の温泉で汗を流した後は、帰りのバスへ。

中山先生から各人で俳句と川柳を二句ずつ出すようにとのこと。俳句のお題は「トンボ」と宿題が出されていたが、「霧」もお題に追加された。まずい。そもそも俳句なんて作ったこともない。一生懸命考える。おつ、いいものを思いついた。本田忠勝の「トンボ切り」。これに宝剣岳をかけてみた。「トンボきり宝剣のサキ 見ゆるかな」お、自分としては上出来上出来。あれっ、もう一句作らないといけない。駒ヶ岳山頂が見えなかつたので、それを詠んでみた。暫くして、中山先生から優秀

が、こない。最後に一位の発表。「駒ヶ岳 霧の衣は幾重にも」「あれっももがして、自分？」手を挙げてみた。先輩方を差し置いて、一位を頂いてしまった。しかも、自分としては、あまり考えずに詠んだ句の方である。副賞として、井上健郎 (三八回) 先生が焼いたお皿を頂いた。俳句って面白い!



高遠城跡にて

優秀作品

- 俳句の部 (中山世一選) (題「蜻蛉」「霧」ほか)  
 天 駒ヶ岳霧の衣は幾重にも  
 地 登頂の頬をなでゆく白き風  
 人 晴天に友の煙や赤とんぼ  
 川柳の部 (中山世一選)  
 天 いつ停める今でしよトイレタイムでしよ 矢野仁美 (五六回)  
 地 あらどこよ捜した入歯口の中  
 人 とんぼうを掴まえられぬ歳がきた  
 中山聖仁 (五九回)  
 井上健郎 (三八回)  
 濱田知佐 (五六回)  
 中島 宏 (三八回)  
 西本憲良 (四四回)



一般社団法人  
**土佐婚倶楽部**®  
 TOSAKON CLUB

婚活のお悩みを心を込めてサポート致します  
 年に数回、合コン等やってます! 詳細はHPで

代表理事・東京相談室長 織田祐輔 (45回生)  
 顧問 梅原 毅 (45回生)  
 顧問弁護士 浦田理有 (76回生)

URL <http://tosakonclub.com/>

東京相談室 042-521-2020

〒190-0012 東京都立川市曙町1-12-19 吉田ビル402

# 学生・若手社会人交流会 2018 11 17

去る11月17日に『学生・若手社会人交流会』が開催され、42名の方が参加されました。  
ご講演いただいたお二人のご紹介とキーワードを取り上げてみました。



## 沖本健二 57回

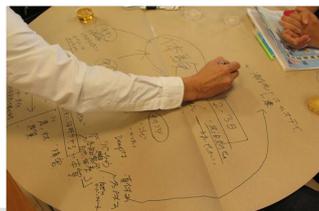
略歴：土佐高校、明治大学を卒業後、高知県庁に入省。  
1998年に株式会社スクウェア（現スクウェア・エニックス）に出向し、株式上場に関わる。  
その後、高知県庁に戻り総務部、観光復興部を務めた後、現在、東京事務所所長として高知県の復興を推進中

移住者も観光客も増加傾向  
子供の出生数前年比増加は高知だけ  
県内総生産も人口減なのに増加  
全国平均にはまだまだ

人高知脳（じんこうちのう）  
構想とは!?  
弱みを転換する  
防災関連産業を国内旅行！  
平均所得も47位から37位に

まずは小さな一歩から！  
ジェットスターは12/19から  
LCCは人乗らなかつたら廃止される  
めっちゃ利用しないと!!!

外のモノサシを知ることが大切  
現在と幕末が似ている!?  
先頭を走った人が勝てるのです。  
高知にいたら変化に気づかない。  
とどまらせる施策は愚の骨頂！  
理想は出て戻ってくることです。



## 小島英揮 62回

略歴：土佐高校、明治大学を経て、PFU、アドビシステムズ等でマーケティング業務に従事。  
2009～2016年AWS(アマゾン ウェブ サービス)で日本のマーケティングを統括。  
2016年コミュニティーマーケティングを考えるコミュニティー = CMC\_Meetup を立ち上げ  
2017年より 決済 (Stripe)、AI (ABEJA)、コラボレーションツール(ヌーラボ)など国内外の複数のスタートアップで、マーケティング、エバンジェリスト業務を推進中





# 高知へ フラッとごはん



LCCでおいしいご飯を食べにいこう

## 参加レポート 土居勘太（85回）

え、十万人もおらんかったかー？

小六のとき（二〇〇四年）に覚えた高知県の人口は確か八三万人だった。その人口はもうすぐ七〇万人を切るらしい。人口が減っていることは知っていたが、まだ八〇万人くらいだと思っていた。一五年で約一五％の減少。このようなペーサだとほまったく思っていない。そして、それぐらい高知について関心がなかった。今回、若手交流会に参加したキツカケは「以前参加したときに楽しかったから」東京にきて五年。過去二回この若手交流会に参加したことがある。いつも若手交流会に参加してよかったと感じることがある。受け身的な気持ちでフラッと行っても、帰り道までに何かしら意識の変化がある。

今回もそうだった。テーマは「外のモノサシをもつ土佐高生に聞いてほしい高知県のリアル」。ちなみにアルコール摂取しながらの参加です（公認W）。今回も講演だけだと思っていたが、当日のプログラムに「ディスカッション」という文字が見えた。（終わった・・・）と思った。関心がないことについての意見はいつも浮かんでこない。前述の通り、高知県に関するの興味がほとんどなかったのだが、最終的にはマジメに考えてしまった。

沖本健二さんの高知のリアルすぎるリアルな話、小島英揮さんの高知ファンを作るための具体的な方法のお話を聞くと、「高知がヤバイ」「なにかやってみたい」

と意識が変わった。講演後のグループディスカッションでは「フラッとごはん（LCCでフラッと高知においておいしいご飯を食べにいこう、通称：フラ飯）」という言葉を作り、沖本さんに採用していただけた。こんなに高知のことについて考えるようになるとは自分でも思っていなかった。

お待ちかねの懇親会はやはり楽しかった。東京にいる同級生も減っており、一緒に行く友人を捕まえられなかったのでひとりで参加ボタンを押した。前回ひとりで参加した際（人見知りなのでかなり緊張していた）も、先輩が声を掛けてくださって別の先輩と繋げていただいたりしたので特に不安はなかった。今回は小・中・高と同じで最近東京にきた友人、土佐高時代はあまり関わりのなかった友人、同級生のお姉さん、友人の後輩などとお話してきた。若手交流会に参加したおかげで、このように繋がっていい感じが好きです。

年に1回帰るか帰らないかの高知ですが、フラ飯という言葉を作ってしまった以上、フラッとメシ食うためだけに高知に行かなくてはならない。フラッと。

そして、来年の若手交流会を今から楽しみにしている。行こうかどうか参加ボタンを今年押せなかった人が、来年参加できる手助けになればと思いつきながら感想を書いていきます。フラッと来れますように！



# 第21回はちきん会



銀座並木通りのICONIC (アイコニック) は明るい店内 おいしい食事話も弾みました



10月6日晴天のもと、銀座のモダンフレンチレストラン「ICONIC (アイコニック)」に61名のはちきんといごっそうが集いました。ワインシニアエキスパートやチーズプロフェッショナルの資格をお持ちの美食家弁護士、ナイトの市川直介さん(53回)が、選んで下さった豪華なお店です。



お料理は、シェフの粋な計らいで、高知の食材をふんだんに使ったモダンフレンチ。

◆前菜

「葉で燻した鰹と土佐酢のジュレ  
アサリ出汁のフランとポムパイユ」

◆魚料理

「カレイのポワレ  
高知県産水晶文旦とムースアグリユーム  
オクラのラビゴット」

◆肉料理

「土佐備長炭で焼き上げた宮崎県産黒毛和牛  
高知県産小ナスのフリット セップ茸のピューレ ソースベルジュ」

◆デザート

「高知県産新高梨のコンポート キャラメルのパルフェグラッセ」

◆コーヒーとミネラルディーズ

◆白ワイン・赤ワイン・ビール・アイ스티ー・オレンジジュース



ゲストスピーカーは、外務省勤務のガーウッド麻裕子（旧姓高村）さんと日本銀行勤務の池田円絵（旧姓宮村）さんの76回生コンビ。同じ英語の塾に通い、英語力を競い合ったそうです。土佐校が誇る才媛は、お二人とも、東京大学を卒業後、素晴らしいキャリアを積みながら、子育てに奮闘中です。

ガーウッド麻裕子さんは外務省に入省後、イギリスのブラッドフォード大学で平和学、ロンドン大学キングス・カレッジで戦争学を学びます。そして、国連の開発目標の策定、対テロ対策のサミットと日米首脳共同声明の作成などもし、時には総理の代理として国際会議で発言したり、外務省代表として総理のすぐ後にコメントをするなどの重責を担います。

現在は、国連制裁室にて、国連安保理決議に基づく制裁措置の履行などの業務に取り組んでいます。

フェンシングを通じて知り合ったイギリス人のご主人との間には幼稚園児の2人の男の子がいて土佐弁も含めたバイリンガルにすくすくと育てているとのこと。激務の時には高知からお母様に出張してもらったり、近所の友人夫妻に「ゴッド・ペアレンツ（代父母）」として、お世話をしてもらっているそうです。

ご主人との会話は、頭の中で日本語から一度英語に変換するので、強烈なハチキンパワーがギアダウンできるのだとか。



池田円絵さんは、日本銀行入行後、100年に一度といわれる金融危機リーマン・ショックが起こります。その震源地であるニューヨークで破産法や金融法について勉強しようと、コロンビア・ロースクールに留学しました。24時間オープンしている図書館も夜中の3時を過ぎてもほとんど満員。はじめての海外生活で差別を受けるなども経験し苦勞をしながらも無事卒業。帰国して、念願の国際金融規制の策定作業を行い、スイスのバーゼルにある、国際決済銀行という建物に3週間泊まり込みで緊張感のある交渉も行いました。リーマン・ショック後の国際金融改革への参画、外貨基準のリスク管理、中央銀行間の通貨スワップスキーム構築に携わっています。

28歳の時に同僚と結婚、翌年からのご主人の留学に同行しイギリスで女の子を出産。日本に帰国後も子育てしながら、上司の制止を振り切り海外出張もこなすハチキンぶり。4回の転園を経験したお嬢さんは社交的で誰からも可愛がられ、「えいごが上手になって外国で冒険がしたい。色々な人とお仕事がしたい。」と願う国際派の小学1年生です。



同級生や大学生からの質問に真剣に答えるお二人  
左：ガーウッド麻裕子さん 右：池田円絵さん

乾杯のご発声は森 健さん（23回）



憧れの先輩方とパチリ

2次会も半数の30名が集まり、ゲストスピーカーとナイトを囲み、話が尽きることはありませんでした。来年もたくさんのはちきんといごっそうにお会いできることを楽しみにしております！

- はちきん会会長 濱田知佐（56回）
- 顧問 佐々木泰子（33回）
- 世話役 黄川久美子（47回）
- 西森さと（57回） 中平公美子（59回）
- 宮崎晶子（67回） 島本陽子（75回）
- 澤田千紘（78回） 西クルミ（81回）

八丁目 七丁目 六丁目 五丁目 和光

三菱東京UFJ銀行 ●銀座ライオン ●GINZA SIX ●みずほ銀行 ●三越

●Nikonプラザ ●ルノアール

●三井ガーデンホテル ●花屋 ●東武ホテル

土佐酒蔵

銀座7-12-4 友野本社ビル地階 TEL 03-3545-3855 土佐酒蔵

# 都会で子育て

佐藤彩記子 (81回)



インターネットは、なんといってもその手軽さが魅力です。わざわざ出かけなくてもポチッとワンクリックで買い物ができる。しかし家に届く商品が、物ではなく見ず知らずの他人・・となると?今回、家事代行サービスをはじめて利用をしたのですが、終わるまでは一抹の不安がぬぐえませんでした。

利用したのは、家事代行「タスカジ」です。インターネットサイトに登録されているたくさんのお手伝いさんの中から、プロフィール、他の利用者のレビューや価格等と自分の希望とをマッチングさせるといったもの。サービスは料理や掃除、洗濯をはじめ子どもやペットの世話まで多岐にわたります。企業が仲介しているのですが、やり取りは直接そのお手伝いさんで行います。今や、お金持ちでなくても手軽にお手伝いさんを買える時代になったのです。私も事前メールで部屋をどのようにしたいかとカウンセリングを受けました。依頼したのは、数年前の引っ越し以来手つかずの片付けです。恥ずかしい話ですが、日々の生活に追われ、一部屋はずっと物置小屋となっていました。当日は予約時間にチャイムが鳴り、挨拶そうそうに作業が始まりました。こちらもお金を支払っている分、お茶や昼ご飯などの気遣いは無用と気が楽でした。

正直なところ、依頼する前は家事代行サービスには心理的に抵抗がありました。子どもには適度に整った住環境を用意してあげたいし自分たちも快適に暮らしたい。でも家事は誰にでも出来ることだし、他人に家庭の恥部をさらし尻ぬぐいさせるなんて・・と後ろめたさがあったのです。

しかし今回プロの家事を目の当たりにし、そのような古い価値観は吹っ切れました!たとえ私が倍の時間をかけてもできない家事を提供してくれたのです。段ボールが山積みとなっていた部屋は、ガラんとすっきりした空間となりました。押し込められていたモノは、「ずっと前からここにいましたよ」と言わんかばかりに、棚の中でゆったりと納まっています。片付けとはこういうことだったのか、と一種



の感動をおぼえました。なお、この間私自身は自宅にいたが、モノの要・不要の分別をするだけで手は全く動かしていません。

都会の生活は、なかなか実家の家族に助けを求めることはできません。仕事に加え育児や家事と、負担の多さに途方に暮れる日々でしたが、「お母さん力」はお金で買えると、フツと肩の荷が降りるような経験でした。不機嫌になる前に助けてもらおう!がモットーの都会で子育て。家計の許す範囲で、今後は日常的にサポートを受けようと思っています。



**おきやく**  
TOSA DINING

一般財団法人  
高知県地産外商公社

ランチ 11:00 ~  
ディナー 17:00 ~



www.marugotokochi.com/  
TEL 03-3538-4351 (サンゴ・血鉢・ヨサコイ)  
〒104-0061 東京都中央区銀座 1-3-13-2F

土佐の料理とお酒を提供するお仕事です。  
スタッフも高知出身者が多く、  
安心して働けます。  
私たちと一緒に働いてみませんか?

- |          |          |
|----------|----------|
| 高田 裕斗 89 | 立本 佑理 89 |
| 今橋 香乃 90 | 大原 海里 90 |
| 横田 剛 90  | 筒井 千夏 91 |
| 西本 七海 91 | 久万 武朗 91 |
| 今井 虹歩 91 | 中島 綾香 91 |
| 山村 倅加 92 | 杉山 雄紀 92 |
| 白石廉太郎 92 | 梅原 僚都 92 |
| 満洲ありさ 92 | 中川 果歩 93 |

アドバイザー 濱田知佐 56



# 「ふるさとへの手紙」

東京大学教育学部4年 大原海里（90回生）



純白の校舎に生まれ変わった土佐高校を旅立って早4年が経ちました。次の春には、長い長い学校教育を終えて、故郷で社会人になります。

私は元教師の親を持ち、成績良好のため学友に勉強を教える機会もあったので、幼いころから教師を目指していました。そして中学で「教師」を進路として明確に意識しはじめました。そんな私は結局、中3以来の「教師」という夢を一度捨てることにしたのです。

私が初めて教師以外の道考えたのは、高校1年の修学旅行でした。コース別研修で、東大のあるお偉いさんによる「ゆとり教育は失敗ではない」という講演、そして文部科学省の内部見学を通して、教育行政にも興味を持つようになったのです。

大学に入り、教員免許取得用や関心の赴くままに授業を取りました。最低卒業単位の1.75倍を取得して卒業するのでそこだけは誇りです。（学校だけで忙殺されました…笑）そんな中で、教員免許取得を目指す同士の学友もでき、彼らと教育の現状や教育システムの中で抑圧される存在といったテーマで、酒のツマミに語り合ったりもしました。

その中で、私は既存のシステムが救いきれない子どもたちや教師の存在に目を向けるようになりました。「学力」に関心を持って教育学部に来た私でしたが、大学で「学校適応」「いじめ」といった側面が気になりはじめ、気が付けば「学校内部だけでなく教育政策・システムに関わる仕事がしたい」と思うようになったのです。

就職活動初期は初志貫徹せんと教員を中心に据えていましたが、自分の中のひずみは抱えきれず、最終的に行政系の職に就くことにしました。異動などあるので必ずしも教育に関われるかは分かりませんが、抑圧された子どもたち、多忙な教師たち、そしてその関係者に対し、少しでも心地よい環境を作ることができたらいいな、と今は考えています。

教育学部生としては、自分の生きてきた道を振り返る作業はよく行っているのですが、改めて書いてみると自分の道は恵まれたものだったと思うと同時に、土佐校という存在の大きさを認識するに至りました。

今回拙稿を掲載していただける貴重な機会をいただき、大変光栄に思います。ありがとうございました。



新しい仕事、暮らしをはじめよう。  
**転職・移住**  
気軽に相談してよ♪

**土佐へ!**

一般社団法人  
**高知県移住促進・人材確保センター**

高知に帰りたいな、と思ったら、ぜひご相談ください。  
高知県、全34市町村、農業・林業・水産業・商工業・福祉などの団体が参画した“オール高知”の体制で人材確保のさらなる強化に取り組んでいます。

☎ 088-855-7748    ✉ jinzai@iju-jinzai.kochi.jp

2名のコンサルタントが常駐!  
**高知県東京事務所内** **東京窓口**  
☎ 03-6206-1707  
[開設時間] 9:30~18:15(平日)  
東京都千代田区内幸町1-3-3 内幸町ダイビル7F

高知で働きたい!!を応援します。  
**「高知求人ネット」**

高知求人ネット

ご相談・ご紹介等、よろしくお願ひいたします。  
高知県移住促進・人材確保センター  
代表理事 岩城孝章(46回生)    コーディネーター 和田さつき(59回生)

# カーナよさこい交流二〇一八 御礼とご報告 浅井和子(三五回)



今年も日本研修旅行のカーナ高校生二〇名(セント・ピーターズ高校、セント・ローズ高校などの男女生徒各十名)が八月十七日に来日、都内および長野県飯田市での研修・交流ののち、台風で予定より二日遅れの九月七日に全員帰途に着き、お陰さまで無事帰国いたしました。

筆山ホームページに早くよさこい写真集を掲載してくださった橋田正幸さん(三七回)をはじめ、多くの同窓生からご応援・ご支援をいただきましたことは誠に有難く、心よりお礼申し上げます。

ました。(予約してあった関空発工ミレーツ航空の帰国便はもちろん欠航)

### 〈急遽羽田空港へ〉

翌五日、エミレーツ航空が関空発便の乗客を同航空羽田発便で優先的に扱つとの情報を信じ、大きなトラブルとリュック姿の一行は、名古屋駅から新幹線と急ぎを乗り継いでやつと羽田国際空港へ到着。待機すること七時間余り、出発時刻の〇時直前までカウンターで押し問答を繰り返した揚句結局搭乗できず。他社とも折衝して解ったのは、各社軒並み満席で、唯一提示された振替便(追加運賃なし)は、成田を六日正午発のタイ航空バンコク行き、トルコ航空バンコク発イスタンブールで乗継のアクラ(カーナ)行きだけ。これを頼みにその日はロビーで寝付かれぬ夜を明かしました。

### 〈成田国際空港にて〉

翌六日は朝一番のリムジンで成田空港へ移動、発券カウンターオープンの八時から搭乗締切まで三時間余り貼り付いて、正午発タイ航空便に乘れたのは一行二十三人中十五人(生徒十二人、先生二人、添乗一人)。残る八人(生徒七人、添乗一人)は取り残されて更に一夜を空港ロビーで過ごすことになりました。

### 〈添乗員の奮闘〉

予約便をキャンセルされた団体が当日や翌日の座席を確保するのは至難です。我らが添乗員(ヨシケン・トラベル)は、小型PCを膝に、二基のスマホを左右の手に握って、日本のエミレーツ航空・タイ航空出先だけでなく、ドバイ、カーナなど時差のある海外の航空会社事務所と始終交信、合間には生徒を気遣う父兄や関係者からの問い合わせにも丁寧に対応するなど、その仕事ぶりは「素人にはとても出来ないこと」と思い知りました。

### 〈帰国難民〉

毎日数万人を運ぶという関空の閉鎖で、便なし宿なしの「帰国難民」を余儀なくされて首都圏に移動した人々が、我々の他にも大勢いたようです。まともな寝床を空港周辺のホテルを当たりましたが、すべて満室でした。都内のホテルといっても、大きな荷物を抱えての夜間早朝の往復は待機時間の費消・体力の消耗、という判断で空港泊りとなりました。

### 〈助け合うカーナ高校生〉

待たされ、振り回され、寝不足で疲労困憊したであろうカーナ高校生たちについて、第二陣の添乗員下さりから、離陸後に次のようなメールがありました。

「今回は、初めて自然災害により予定通りにプログラムを完了させる事は出来ませんでした。危機対応を生身で経験させていた、良い機会となりました。支援会のNさんが、先手・先手で状況判断してくださいました。本日は、最終組は無事にバンコク経由で帰国の途につく事ができました。最後の最後まで見守ってくださいましたNさんに、心より感謝申し上げます。学生からも、自発的に感謝の言葉が出てくるようになっておりまして、感慨深いです。

五日は羽田空港内待機、六日は成田空港内待機と、二連泊で学生の体力と気力が心配でしたが、空港泊生活を彼らなりに楽しんで過ごしてくれました。成田空港では、六日の朝に支援会の新手が駆けつけくださり、第一陣のお見送りと、残留となった七名のために成田空港内ロビーの一角をご案内いただきました。とても快適であったのか(空港内のシャワールームで蘇生?)、ここで数日待機でも良い!とまで言い出す学生もいました。

思い返しますと、関空閉鎖に伴う振替便も決まらない不安の中、大量の荷物を抱えて名古屋駅から新幹線に乗り羽田へと乗り継いだ際、我がカーナ学生チームが助け合っただけでなく、外にも統率の取れた動きをしてくださいました。その後も、文句を言う学生は一人もいなかったのは、驚きと感激でした。学生の家族からも、温かい励ましの言葉を沢山いただきました。涙もろい私には、つい涙腺の緩んでしまう経験をさせていただきました。

アクラに迎り着くまで気を緩めず、無事に送り届けたいと思います。  
平成三十年九月七日記



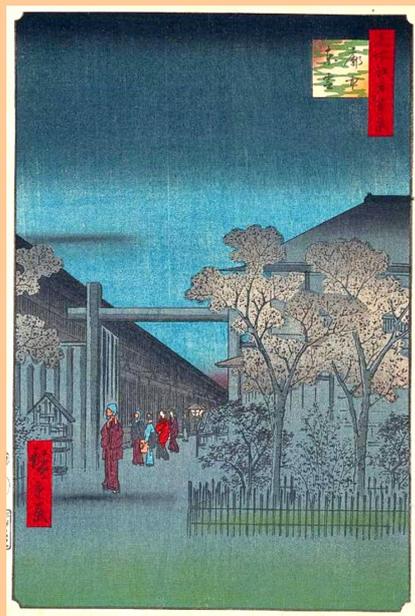
(上) 江戸切絵図<尾張屋清七版 嘉永頃-1850頃> 遊客は山谷堀出口の今戸橋で舟を降りて日本堤(山谷堀の土手道)を徒歩または駕籠で新吉原に向かった。

江戸を語るとなると、吉原はどうしても避けて通れない。幕藩体制下の江戸の娯楽というものは、現代に比べればはるかに少なく、最大級の娯楽といえ、江戸三座の芝居と新吉原であった。江戸の三大祭や両国川開きは一時的なものであり、両国広小路や上野山下の賑わいも江戸っ子にとっては楽しみではあっても極め付きの娯楽と言うほどのものではなかった。限られた紙面なので、吉原に関する種々の逸話や遊女列伝、遊女の階級の変遷等は省いて、新吉原の成立と歴史を平板に見てみよう。

その後も江戸の発展に従い、江戸周辺地域の百姓の次男三男四男が職を求めて江戸にやって来る。そんなこんなで江戸には上下の別なく独身の男が満ち溢れ、男の数が女の数を常に上回るという状態が幕末まで続いたのである。江戸時代の人口統計は甚だあてにならない体のものであるが大体の人口の傾向は読み取れるので、参考のため嘉永六年(一八五四年)の統計を挙げると、男二九万五五五三人、女二七万九四七二人となっている。これは市街地だけ、つまり町奉行支配下の分(武家寺社を除く)だけだが、飢饉に對するお救いのため人数改(あらため)をやった記録である。「しかし実際は、女の数が少ないというよりも、独身者が多い。土にしても町人にしても、江戸は独身者の多いところだったのです。」(三田村篤魚)

「そういう店が麹町八丁目と鎌倉河岸に十四軒つつ、柳町に二十軒余あった。(中略)その柳町には江戸土着の遊女が集まり、麹町には京都六条から移転した娯家が軒を連ね、鎌倉河岸には駿府弥勒町から移住した女たちがいた。」(矢田挿雲)

こうして開府以後二十四、五年は娯家の住所に制限は無かったが、元和三年(一六一七年)庄司基右衛門の献言により日本橋地区の葦原(よしわら)に土地を賜り、江戸中の娯家を集めて、初めて一廓の花柳街が形作られた。葦原は縁起を担いで吉原と表記されるようになった。これが後の新吉原に對して元吉原と呼ばれる場所である。今の人形町の辺りである。正方形に近い区画で二町四方の大きさであった。一町は約一〇九米なので二一八米四方である。江戸初期の日本橋は葦(よし)の生い茂る湿地帯であったので葦原もしくは葦原と呼ばれていた。今でも日本橋葦町(よしちよう)の地名が残っている。しかし日本橋一帯の市街が発展するにつれて、風紀上の理由で、吉原移転問題が何度か幕府でも検討された。



(上) 歌川廣重「名所江戸百景」より「廓中東雲」(安政四年頃-1857年頃) 吉原の曙の図。頬かむりして朝帰りする客を見送る遊女が描かれている。この門は吉原大門(おおもん)ではなく、廓内の各町を仕切る木戸の一つである。

この元吉原に對して新吉原と呼ばれ、昭和36年の赤線廃止まで二百年続いたのである。新吉原の町割も元吉原と同じく、大門(おおもん)を入って仲の町、それに交差する左右の町が江戸町一丁目、同二丁目、揚屋町、角町、京町一丁目、同二丁目と、いわゆる五丁町に区分されていた。江戸の嫖客が吉原通いをする代表的なルートには、猪牙舟(ちよきぶね)に乗り、隅田川を遡り、お蔵前の首尾の松谷に今夜の上首尾を祈り、山谷

掘の今戸橋のところ舟を降り、後は徒歩か駕籠で日本堤を行き、見返り柳のところから左手に土手を下り、衣紋坂の両側には二十五軒つつ計五十軒の茶屋が並び、大門に入る前に軽く腹ごしらえをしたり編み笠を借りたりした。旧幕時代の遊蕩児は遊蕩は悪事であるとちゃんと心得ていたから、編み笠をかぶり顔を隠したのである。このため五十軒の茶屋は編笠茶屋とも呼ばれた。(四一回 西岡恒憲)



(上) 右図と同じ方向から撮った現代の見返り柳(筆者撮影)。道路は日本堤通り。ビル群の後方には暗渠になった山谷堀がある。



(上) 歌川廣重「東都名所」より「新吉原日本堤衣文坂曙」(天保五年頃-1833年頃)。手前の吉原大門に続く衣文坂から日本堤へ上がる道を、朝帰りの遊客が駕籠や徒歩で帰っている。曲がり角に見返り柳が描かれている。ここで朝帰りの客が名残惜しげに廓の方向を振り返ったので見返り柳と呼ばれた。

# 母校だより 校長 小村 彰 (49回)

## 第七一回運動会に寄せて

「(略) きょうは、土佐校生活最大のイベント、通過儀礼ともいえる運動会です。(略) この伝統を引き継ぐことを誇りに思い、この環境を提供して下さった先生方、保護者の皆さま、先輩方、地域の方々の恩に報いるため、そしてこれから土佐に進学を考えている未来の土佐校生に夢を与えるためにも、きょうの運動会を、『冠する土佐の名に叶う』日本一の運動会にすることをここに誓います。平成三十年九月三日 紫組キャプテン 長田律輝」

今年、第七十一回を迎えた運動会の選手宣誓です。開門前(一番乗りは前日朝)から並んだ方が席を埋め、その後ろには立ち見の観客が何重にも取り囲んでいます。こんな宣誓がなされ、こんなにたくさんの方にきていただくほどに、本校の運動会は盛り上がり、注目を集めるようになってきました。この運動会が新グラで行われるようになったのが、四六回生が高三の時でした。このときは雨で途中打ち切りとなり、高三のホームゲームだけ最後にやっていた記憶があります。

その後、仮装行列とホームゲームを一体化させて高二で実施し、高三はやぐらづくりのみとする。高三から中三の生徒で応援団を組織し、本番で各色ごとに演舞を行い応援団賞を授与するなどの大きな変化がありました。しかし、現在の形式が固まって以来、その運営のノウハウは年を重ねるごとに研ぎ澄まされ、余計なもの全くない洗練されたものになってきました。その結果、運営はスピーディーで間延びがせず、生徒は与えられた役割(競技のテクニク向上を目的)に全力で取り組み、やぐら・ホームゲーム・応援と観るものを惹きつける仕掛けも洗練され、本場に観るに値するイベントに成長しています。



見事に呼応して、競技・役割が設定されているということです。中一女

最近、実感しているのが、この運動会が生徒の成長に到達段階に

子の着せつけは、創意工夫の始まりだし、中二の四人五脚、中三のムカデ、さらに高一のかごかきという競技の変化は、協力力や体格のアンバランスをどのように調整するかという点で、確実に難度があがっていきます。そうした創意工夫と協力の集大成がホームゲームであり、やぐらになる。かつ、男子は高二で鯉の滝登り、高三で騎馬戦と危険を伴う競技に勇敢に立ち向かう(ジエンダー論からみれば問題なしとはしません)ことを通じて、庇護された世界から旅立つ力を身につけたことを証明します。今年の宣誓でいみじ



「死と再生」が実感として高三生に生じているように思います。たかが運動会ですが、されど運動会。生徒たちの「いい顔」があふれる場に立ち会えることを心から嬉しく感じた一日でした。

くも述べられたように「通過儀礼」そのものです。そして、その燃え上がった一日の最後に、懸命につくったやぐらをこわし、何もないグラウンドをみたとき、達成感とともに覚える喪失感が、次への意欲を生み出す。まさに、通過儀礼の持つ

この運動会だけでなく、各クラブの活躍(中学弓道部男子は全国三位)、初めての海外語学研修(中三から高一の一九名



- 1 100m走 中3全
- 2 全員リレー 高3全
- 3 ああ〜棒倒しの音お〜 高1男
- 4 リメキバー・ミー 中2男
- 5 タイ野行動 中1男
- 6 全員リレー 高2全
- 7 そんなの割れへんやん 高1女
- 8 四五どん 中2全
- 9 100m走 中1全
- 10 障害物は超えるためにこそある 高2女
- 11 クラス対抗リレー 高1選
- 12 穿き方改革 中3女
- 13 健康で協力的な唯一無二の先生 中1女
- 14 クラス対抗リレー 中2選
- 15 ホームゲーム前半 (S/H/N)
- 16 全員リレー 高1全
- 17 ムカデシク・ワールド 中3男
- 18 玉のち割れ 中1男
- 19 クラス対抗リレー 高3選
- 20 100m走 中2全
- 21 ホームゲーム後半 (T/K/O)
- 22 クラス対抗リレー 中3選
- 23 リムたちはどう廻るか 中2女
- 24 クラス対抗リレー 高2選
- 25 いい籠乗ってんね〜 高1全
- 26 クラス対抗リレー 中1選
- 27 全員リレー 中3全
- 28 はい ぴょこりぱん 高3女
- 29 騎馬戦 高3男
- 30 鯉の滝登り 高2男
- 31 応援合戦
- 32 責任綱引き 高3全・高1.2選
- 33 責任リレー 全選

2018年度プログラムより

# 関東支部だより

## お墓詣りに行ってきました

10月最後の土曜日2年ぶりに多磨霊園に三根園次郎初代校長先生を同窓生9名で訪ねた。「少数精鋭の英才教育を通じて国家に尽くすリーダーの育成」を目的として設立された母校、当時は第1第2学年合計で生徒数は25名だった。時代は変わってもその設立趣旨は今でも生きていくに違いない。東大哲学科出身で修身を担当された三根校長は常々生徒に「凡庸に墮する勿れ」と説いたそうだ。始業式の最中に高知をも襲った関東大震災時のエピソードなど感動的な手記満載の先生の追悼文集（昭和18年発行）が復刊され若い同窓生の間で読まれ始めたのはうれしい限りだ。

これほどまでに恐れられ、しかし愛された先生を知らない。同窓生には是非一読をおすすめする次第だ。興味ある人は筆山会事務局に連絡ください。併せて母校の新聞部（向陽プレス倶楽部）編集の資料集「土佐中學を創った人々」の一読も推奨する。

筆山会事務局 前田憲一（37回）



## 学年幹事会および支部総会について

2018年も支部の活動にご理解とご協力ありがとうございました。  
来る2019年も母校の更なる発展と同窓生の絆を深めるために貢献できればと思っております。

**学年幹事会は2月9日（土）**  
総会準備会 開始13時  
学年幹事会 開始14時30分  
懇親会 開始16時

2019年度は、回生末尾9の会の方々が中心となって企画されます。  
ご案内をお出ししますので企画からの参加をよろしくお願いたします。

**総会・懇親会は6月1日（土）**  
総会 開会15時  
懇親会 開会17時30分

学年幹事会及び総会ともに  
場所：霞が関ビル35F  
東海大学校友会館



昨年の総会懇親会から



## 「筆山会」新年会のお知らせ



2019年の幕開けを、新しい気持ちで同窓生の皆さまと共に祝いましょう！  
どうぞ皆さま、お誘い合せてご参加下さい。  
間もなく創立100周年を迎える土佐高の、更なる発展を願って、大いに語り、意義ある楽しい時を過ごしましょう！！  
大勢の皆さまのご出席を、心よりお待ちしております。  
「筆山会」会長 佐々木泰子(33回)

日時：2019年1月12日(土)  
12:00～14:00 (11:30 受付開始)  
場所：新日鐵代々木倶楽部  
(03-3370-3141)  
参加費：男性 7,000円 女性 5,000円  
(60回以降の方は1,000円割引、  
土佐高カップルは9,000円)

♪青春 若き血潮はたぎる～ 我ら わが友～♪

参加される方は、下記事務局まで  
電話又はメールでご連絡下さい。  
前田憲一(37回)080-3364-8885

kmaeda@s4.dion.ne.jp

(会場から徒歩数分の明治神宮への初詣を兼ねて参加される方もいらっしゃいます)

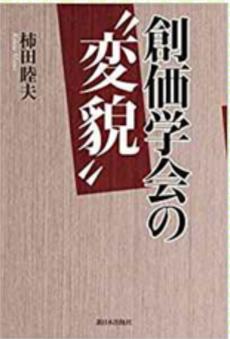
# 出版レーダー



田島征三 (34回生)  
「わたしの森に」  
2018.8くもん出版



森岡浩 (55回生)  
「甲子園 夏の記憶 (全国高等学校野球選手権大会100回記念)」  
2018.8 洋泉社  
「思わず人に話したくなる! 日本人の名字」  
2018.12 二見書房



柿田睦夫 (38回生)  
「創価学会の“変貌”」  
2018.9 新日本出版社



廣瀬裕子 (60回生)  
(ペンネーム 高遠裕子)  
「人生を変える80対20の法則」  
2018.8 CCCメディアハウス



橋本茂 (34回生)  
「ヒューマン・グループ: 人間集団についての考察」  
2018.9 ミネルヴァ書房



川村明 (49回生)  
「のぼすだけで、体がよみがえる ひざ裏のぼしボール&タオル」  
2018.12 主婦の友社



矢野龍彦 (46回生)  
「音が変わる! 演奏がラクになる! ピアノ骨体操」  
2018.10 音楽之友社

## 私の一冊

『この空のかなた』

須藤靖 (52回生)

南空のオリオン座が輝く今の季節にぴったりではないでしょうか。壮大な宇宙を知るために、壮大な労力と予算が費やされてきたことでしょう。ガリレオが天体望遠鏡を発明した時代から先行研究の上に新たな研究を積み重ね、世代を超えて脈々と受け継がれてきたからこそ、現代の私たちが本書の美しいカラー写真を見ることができるようです。本書を読んでからは夜になると、これからも宇宙には驚くような事実が判明するのだろうと、夜空を眺めてしまいます。



2018.6 垂紀書房

遠藤瑞枝 (67回生)



村木厚子 (49回生)  
「日本型組織の病を考える」  
2018.8 KADOKAWA  
「新時代からの挑戦状」  
2018.7 厚生労働統計協会